

日本電建株式会社の出版活動に関する研究 月刊誌『朗』を中心とした考察

A study of publication activities of Nihon-denken corporation
Considering through monthly magazine "Hogaraka"

○里井レミ¹ 大川三雄²
○Remi Sato¹ Mitsuo Ohkawa²

Abstract: This paper is about Nihon-denken corporation, established in 1930, led the owner-occupied housing that has been the mainstream of Japan after WW II. This corporation not only provided a owner-occupied house to under middle class people by the Combination Acts but also published a monthly magazine, "Hogaraka". The aim to publish the magazine was to advertise their company's revolutionary method of purchasing own-occupied houses at first. However, it gradually became to illuminate about purchasing own-occupied house itself.

1. はじめに

日本電建株式会社（以下:日本電建）は、戦前期に中流階級以下に対して持家を普及した民間住宅供給会社である。戦前期では、大正期には住宅改善、昭和初期には住宅営団や同潤会などが住宅史の中心として語られているが、民間住宅供給会社が一般市民に対して供給の一端を担っていた。しかし、その実態は住宅史においてあまり語られていない。

2. 目的と方法

日本電に関する研究は、「わが国に持家を普及させようとした平尾善保の住宅論」¹や「建築家清水栄二の経歴と建築活動について」²があるが、いずれも平尾善保と日本電建の運営の概要や清水栄二と日本電建の関係について言及することとどまり日本電建の出版活動についてはあまり語られていない。本稿では昭和 8 年より創刊した日本電建の月刊誌『朗（ほがらか）』の戦前期を中心に会社の運営方法や当時の時代背景と照らし合わせて日本電建における出版活動の位置づけを行う。

3. 日本電建株式会社の概要

日本電建は昭和 5 年に関西電話組合株式会社として平尾善保と中山幸市によって創業された。当初は当時普及しつつあった電話を組合方式により取得する事業内容であったが、その翌年に住宅の給付も開始する。組合の契約数は住宅事業を開始してから 5 年の間に約 54 倍に増加した。また昭和 11 年には関東での契約数が関西を上回り、さらに東京市内での契約数が全体の 4 割を占めるようになり、昭和 16 年に本店を神戸から東京に移している。日本電建の画期的な住宅取得方法が、当時ほとんどが借家住まいであった中流階級以下の人々から高い関心を向けられていたことがわかる。

日本電建は、契約数の増加に伴い支店の全国展開や

役員の人数も増員すると共に建築技術顧問として清水栄二や渡辺静を迎えた。戦時体制下の影響で昭和 18 年に営業を中止したが、昭和 25 年に営業を再開し、平成 14 年に大東建託へ業務を委託した。

4. 日本電建株式会社の出版活動について

昭和 10 年には社内には出版部を設立し、日本電建が営業を中止した後も昭和 20 年まで続いた。その後、昭和 26 年に出版を再開し昭和 36 年にほがらか出版社として独立し、昭和 38 年に現在のニューハウス出版株式会社となる。戦前期には、月刊誌、平尾の著書や住宅のスタイルブック、建築家による著書を多く出版した。

5. 月刊誌の変遷について

日本電建の出版物の中でも月刊誌は戦後まで続く住宅雑誌の先駆けとなった。昭和 8 年の創刊当初は『住宅と電話』という自社の組合員に配布される会報であったが、昭和 10 年に『朗』へ改題され書店で販売されるようになった。戦前期の『朗』の内容は日本電建の広報的要素が強かった。その後、昭和 20 年 2 月号をもって休刊し昭和 30 年 11 月号より再販を開始した。昭和 37 年には『朗』をすまい雑誌『ニューハウス』と改題し現在では不定期に発行されている。戦後は、自社建設の住宅に限らず掲載し住生活の提案を行っており、日本電建の広報活動としてではなく一般的な住宅雑誌としての発展をとげていった。

5-1. 広報誌『住宅と電話』

昭和 8 年創刊された『住宅と電話』は、日本電建の組合員へ配布された広報を兼ねた会報であった。創刊当初は電話と住宅を取り扱っていたため『住宅と電話』という名称であったが取り扱う建物が住宅だけにとどまらなくなったことや内容が各種の懸賞募集や趣味、芸術など芸文誌としての一面を持つようになってきた

1 : 日大理工・院(前)建築、Graduate Student, CST, Nihon-U 2 : 日大理工・教員・建築、Professor, CST, Nihon-U

ため、昭和 10 年 2 月号より『朗』への改題を行い書店で発売されるようになった。雑誌の毎月の発行部数や住宅関連以外の広告掲載の希望者が増え、広報誌としてだけではなく大衆へ向けた住宅雑誌として発展していこうとしていた。

5-2. 月刊誌『朗』への改題

『朗』は昭和 10 年に改題されると昭和 20 年に休刊するまでに題字前の言葉が 3 回変化する。それに伴い表紙のデザイン、誌面の内容も変化する。改題当初は「住宅選び懸賞」「家を建てた喜び」といった記事が『住宅と電話』より引き続き掲載された。前者は読者が日本電建が建てた住宅 3 件の中で一番を選ぶというもの、後者は日本電建で家を取得した組合員の感想文である。これらは住宅に関する市場調査と広報をするためである。また『住宅と電話』から引き続き文芸誌としての内容も充実していた。

5-3. 趣味と建築の大衆紙としての『朗』

昭和 11 年 9 月号に出版部が東京へ移転すると同時に題字前に「趣味と建築の大衆誌」という言葉がつく。また、毎月自社建設の住宅の写真と日本電建の設計者による解説をつけた口絵が登場するようになった。その他にも「住宅照明と電気設備はどうするか」「使い勝手のよい押入の改造」などの記事も掲載されるようになった。これまで住宅に関する記事は広報的要素が強く含まれていたがこの頃より大衆へ向けて建築の知識を浸透させる役割りを担うようになっていった。

5-4. 住宅雑誌としての『朗』

昭和 13 年には題字前に「住宅雑誌」が付く。これまでの文芸関連の記事がなくなり、住宅の口絵や写真図面が誌面の大半を占めるようになった。また「ホームセクション」として主婦向けの企画連載も始まった。

昭和 15 年より誌面に「新体制下の国民住宅」「木造建築統制規則に就いて」「防火住宅のデザイン四案」といった戦時体制の影響が見られる内容の記事が顕著に見られるようになる。これまで以上に合理的・経済的な

最小限住宅の提案が行われるようになっていった。さらに、住宅の修繕方法の記事も目立つようになった。また、主婦向けの「ホームセクション」は廃止された。

5-5. 住宅科学雑誌としての『朗』

昭和 18 年 5 月号より「住宅科学雑誌」という言葉が題字前につく。執筆者は一部建築家による「狭い家に住む工夫」などの記事を除いてそのほとんどが防空総本部技師や厚生大臣など官庁関係者による「決戦下に於ける住宅の維持手入」「毒ガスの話」といった戦争色の強い記事であった。誌面上からはこれまでの挿絵やデザインが消え、文字と写真だけの簡素なものとなり、官庁の意図を大衆に伝える役割りを担っていた。

6. まとめ

日本電建は自社の画期的な住宅取得方法を広報するために『住宅と電話』を創刊した。しかし、『朗』に改題されると徐々に直接的な広報ではなく建築全般の知識を浸透させるような内容の記事が増えた。また、当初は文芸誌としての一面も持っていたが途中から主婦向けの記事を掲載するようになった。建築に対する関心を高めると共に、読者に主婦層を取り込むことで家庭全体を巻き込んで持家取得への憧れを助長させることで、結果として間接的な広報活動になっていた。

7. 注釈

- [1] 内田青蔵 「わが国に持家を普及させようとした平尾善保の住宅論」『住宅建築文献集成 第 27 巻 平尾善保『最新住宅読本』』（柏書房株式会社 2013 年 6 月）
- [2] 川島智生 「建築家清水栄二の経歴と建築活動について」(『日本建築学会計画系論文集』五四四号、二六三～二七一頁、2001 年 6 月)

8. 参考文献

- [1] 平尾善保『甲南閑話』, 日本電建出版部, 昭和 15 年
- [2] 日本電建株式会社『営業案内』, 昭和 15 年
- [3] 日本電建出版部『住宅と電話』, 1 巻 1 号~3 巻 1 号, 昭和 8~10 年
- [4] 日本電建出版部『朗』, 3 巻 2 号~12 巻 3 号, 昭和 10~19



図 1. 『住宅と電話』



図 2. 『朗』(昭和 10 年)

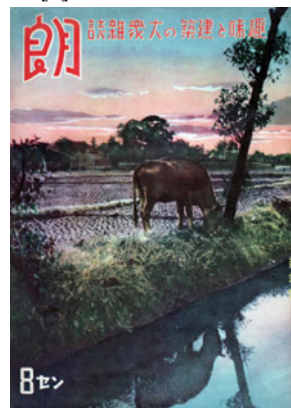


図 3. 『朗』(昭和 12 年)

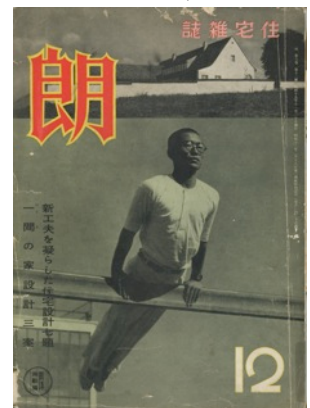


図 4. 『朗』(昭和 15 年)